

第4回富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会の議事概要

1. 日 時 令和7年12月24日(水) 13時30分から
2. 場 所 富山県民会館6階 611号室
3. 出席者 知事、富山市長、魚津市長、滑川市長、黒部市長、上市町長、立山町長、舟橋村長、富山地方鉄道社長

4. 概 要

(1) 各分科会からの報告及び令和8年度の対応について協議

- ・ 3路線（本線、立山線、不二越上滝線）の各分科会における検討状況及び今後の方針について報告。
- ・ 令和8年度の運行継続にかかる経費（収支差）について、富山地方鉄道、富山県、沿線7市町村で3分の1ずつ負担するスキームを了承。
- ・ 沿線市町村の負担割合については、列車走行キロを基本としつつ、財政規模等を考慮して早急に事務方間で協議し、決定することを確認。

(2) 意見交換（主なもの）

【令和8年度の対応に関するもの】

- ・ 令和8年度については現行ダイヤを維持し、廃止届の提出はしない。収支改善に向け黒字を目指す努力を続ける。
- ・ 各分科会はさらに議論が必要な状況であり、令和8年度は現状の路線維持が不可欠。富山地鉄への支援という考え方ではなく、鉄道ネットワークを維持するための公的負担として、県、沿線自治体で収支差の一部を負担するスキームとしてはどうか。
- ・ 市町村の負担割合について、財政規模の小さい自治体への配慮を求める。

【各自治体での取組みなど】

- ・ 住民説明会では、存続希望だけでなく厳しい意見も出ている。引き続き丁寧な対話が必要である。
- ・ 利用促進に向け、新駅設置や観光列車、NFT等、自治体独自でも積極的な支援・取り組みを行っている。

【本線のあり方に関するもの】

- ・ 本線のあり方（並行区間等）については、あいの風とやま鉄道との接続や乗り入れ等の選択肢を含め、費用対効果や課題を明確にした上で議論する必要があるため、あいの風とやま鉄道にも議論に参画してもらいたい。
- ・ 設備投資や運行調整等の課題があるが、比較検討のため費用感を出すことは必要である。
- ・ 現状では乗入れには色々な課題があり、また、あいの風とやま鉄道は独立した民間会社なので、乗入れ費用等の調査をいきなり依頼するのはどうか。今後、議論していきたい。